

東京青調会定例会参加レポート

3月24日（土）に東京青調会第2回定例会に参加してきましたので報告します。

・第1部「震災・戦災 復興図ってなんだ？復興図の読み解き方」

震災復興図及び戦災復興図の説明並びに事例紹介がされました。

震災復興図概要

震災復興図は震災で焼失した隅田川の両岸の地域で整備されています。

東京都建設局HPに索引図が閲覧でき、東京都建設事務所又は区役所で換地確定図（1/300）が閲覧できます。

陸軍陸地測量部（国土地理院の前身）によって多角測量が行われ、細部測量（観測）、確定測量（測設）は東京市などが行っています。

公差点に中心線の交点や折点を設置してそれを利用して平板で一筆地を観測しています。

法的性格等

道路区域と筆界は一致し民地との所有権界も一致する。

間表示かつ小数点以下3桁目を切捨てしている。

借地も点線で表現されている。

復元手法

区役所に予定線があり、確定点をS点とする。

復興図の辺長は区によって取扱が異なる。

予定線がない場合は道路の中心点に座標を取り付けて中心線から幅員の半分を折り返して街区線とする。

街区全体の辺長と一筆地の辺長の合計を確認する（切捨てのため）

切捨ての調整を考慮する（0.000間～0.009間の値の幅0.0016m）

1間=1.818mで計算する（20÷11）。

面積の合計（借地の合計も）を確保する。

背割りの部分の面積も確保する。

街区の内角の合計180°、幅員を確保する。

戦災復興図概要

各自治体（東京に限らず千葉市なども）が整備したが震災復興図のように細部にわたる標準設定はない。

震災復興図が整備された箇所も整備する予定であったが後に必要最低限のみになった。

法的性格等

震災復興図とほぼ一致する。

道路区域と筆界が不一致の箇所がある。

東京都建設局に計算簿を開示請求すると閲覧できる可能性がある。

国立公文書館や国立国会図書館のHPから閲覧できる文献がある。

・第2部「数値だらけの区画整理完了地域の復元」

事例紹介がされたのちに座標変換に関して質問をしました。

変換方法としてヘルマート変換とアフィン変換の特徴について

ヘルマート変換は相似変換（形状は変わらない）になるので全体の角度と縮尺率が変わる。

アフィン変換はX軸Y軸の縮尺が異なってくるので相似形にはならない。

区画整理など図面を基に現地ができている座標系が直交している時はヘルマート変換が適していて、傾斜地を背負っていて斜距離が疑われる、公図を座標化して現地に当てはめるなど図面に歪みがありそうなときはアフィン変換が適しているようです。

ヘルマート変換について比例を「1」に固定するかの判断や準拠点の配分や点数も個別の見解を聞きました（事例ごとに個別判断になるので）

準拠点の配分や較差によっては精度が高い点に重みのパラメーターを与えてみる方法もあるとの指摘もありました。

アフィン変換について元の形状が変わるので使い道が分からなかったのですが、元の図面の歪みを取る手段であれば、公図が歪んでいると片付けるのではなく上手く当てはめることができる可能性がありそうです。

重みを与えることも試してみる価値がありそうです。

以上、報告とします。

坂本晋介